アインストーン
詳細はここをクリック！

1 資料を読む①

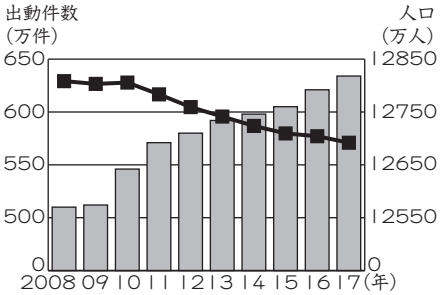
例題 1

みさきさんグループは，次の【救急車についての記事】と資料のグラフを見つけました。あとの問いに答えなさい。

【救急車についての記事】

> 2017年の救急車の出動件数は，全国で約634万件となっており，前年より約13万件増えています。近年は，過去最高の出動件数を更新し続けています。
>
> 救急車は，急病や事故などのとき，多くの人にとってたよりになるものです。しかし，基本的に無料で利用できるため，最近は，きん急でないときや軽いけがのときでも救急車をよぶ人が増えているそうです。救急車や救急隊員の数には限りがあります。このため，通報があってから救急車が現場に到着するまでの時間に，遅れが生じるようになりました。本当に困っている人が，必要とするときに救急車を利用することができるよう，私たち一人ひとりが考えなければなりません。

資料　全国の救急車の出動件数と日本の人口の推移



（総務省資料により作成）

(1)　資料は，全国の救急車の出動件数と日本の人口の推移を表しています。資料から読み取ることができる内容として正しいものを，次のア～エから1つ選び，記号を答えなさい。

ア　2008年と2017年と比べると，救急車の出動件数は約13万件増えている。

イ　2008年と2017年を比べると，救急車の出動件数は約2倍に増えている。

ウ　2010年から2017年まで，人口は減っているが，救急車の出動件数は増えている。

エ　2010年から2017年まで，救急車の出動件数は，人口に比例して増えている。

(2)　本当に困っている人が，必要とするときに救急車を利用することができるよう，私たちはどのようなことに気をつけるとよいでしょうか。【救急車についての記事】をもとに，25字以上35字以内で書きなさい。

［山口県共通］

考え方

ステップ1　(1)を解くために，資料を読み取る。

・救急車の出動件数は，2008年が約①＿＿＿＿＿万件，2017年が約②＿＿＿＿＿万件で，100万件以上増加おり，2017年の救急車の出動件数は，2008年の救急車の出動件数の約③＿＿＿＿＿倍です。

・人口は2010年から2017年まで④＿＿＿＿＿＿＿し，救急車の出動件数は2010年から2017年まで⑤＿＿＿＿＿＿＿しているため，救急車の出動件数は人口に⑥＿＿＿＿＿＿＿しています。

ステップ2　(2)を解くために，記事を読み，救急車の利用について気を付けることを考える。

・2017年の救急車の出動件数は，前年より約⑦＿＿＿＿＿万件増加し，過去最高となりました。

・救急車は，急病や⑧＿＿＿＿＿のときにたよりなるが，基本的に⑨＿＿＿＿＿で利用できるため，けがの程度が⑩＿＿＿＿＿ときにも救急車を呼ぶ人が⑪＿＿＿＿＿＿＿います。

書き方　本当に困っている人が救急車を利用できるように私たちが気をつけることを書きましょう。

答え

(1)　記号：⑫＿＿＿＿＿

(2)　（例）きん急でないときや軽いけがのときには，⑬＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ようにする。

例題 2

会話文を読んで，次の問いに答えなさい。

千花：国内では，しょう油の消費量が年々減少していることがわかりました。

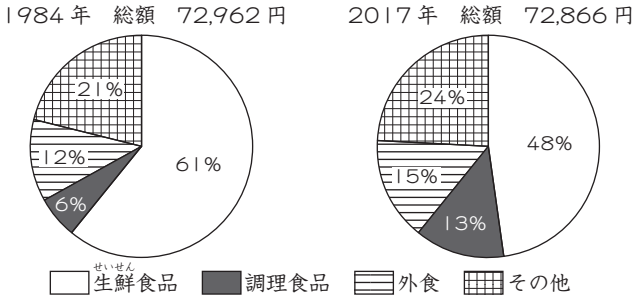
良夫：そうなのですか。米の消費量も国内では年々減少しているみたいです。これは日本人の食生活が洋風に変わってきたからでしょうか。

千花：調べてみると，（　　）。

会話文中の（　　）には次の文が入ります。（ ⓐ ），（ ⓑ ）の内容としてふさわしいものを，あとの選択肢から⓪は１つ，ⓑは２つ選び，記号を答えなさい。

> 家庭で使うしょう油は減り，企業が使うしょう油は増えていたので，**資料**を見て考えると，（ ⓐ ）のではなく，（ ⓑ ）からだという別の理由を考えました。

資料　１か月の食費の内訳（２人以上の世帯）



※１　生鮮食品とは，穀類（米，小麦など）・魚介類・肉類・乳卵類・野菜海藻類・果物類のこと。

※２　調理食品とは，お弁当やお惣菜，冷凍食品，チルド食品、レトルトパウチ食品などを含む。

※３　外食には，学校給食の支出は含まれない。

（「家計調査結果」（総務省統計局）より作成）

ⓐの選択肢（１つ選択する）

- **ア**　家庭で調理する
- **イ**　調理食品を購入する
- **ウ**　外食をする

ⓑの選択肢（２つ選択する）

- **エ**　家庭で調理することが増えた
- **オ**　調理食品を購入することが増えた
- **カ**　外食をすることが増えた
- **キ**　家庭で調理することが減った
- **ク**　調理食品を購入することが減った
- **ケ**　外食をすることが減った

［千葉市立稲毛］

考え方

ステップ 1　資料から，1984年から2017年にかけての１か月の食費の変化を読み取る。

・1984年から2017年にかけて，割合が減少しているのは ①＿＿＿＿＿＿で，割合が増加しているのは ②＿＿＿＿＿＿と ③＿＿＿＿＿＿です。

ステップ 2　資料から読み取ったことから，しょう油が減少した理由を考える。

・1984年から2017年にかけて，④＿＿＿＿＿＿の割合がへり，⑤＿＿＿＿＿＿や ⑥＿＿＿＿＿＿の割合が増加したということは，家庭で食品を ⑦＿＿＿＿＿＿することが減り，⑧＿＿＿＿＿＿を購入して食べたり，⑨＿＿＿＿＿＿することがふえたということです。

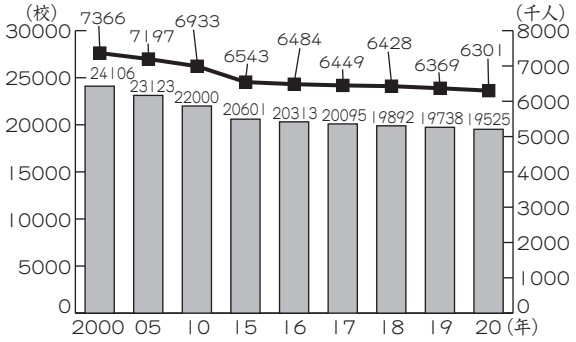
答　え

ⓐ　記号：⑩＿＿＿＿　ⓑ　記号：⑪＿＿＿＿，⑫＿＿＿＿

確認問題

1　りょうさんのグループは，次の**資料1**，**資料2**を見つけました。あとの問いに答えなさい。

資料1　小学校の数の変化と児童の数の変化



（文部科学省資料より）

資料2　学校の統合・存続を選んだ理由

【学校の統合を選んだ理由】
・児童の数が減(へ)って，教育活動を十分に行うことがむずかしくなったため。
・学校が古くなり，地震対策の工事が必要になったため。
【学校の存続を選んだ理由】
・他校までのきょりが遠く，学校がなくなると不便になるため。
・学校が地域(ちいき)社会の中心となっており，地域の住民の活動の場を守るため。

（総務省資料より）

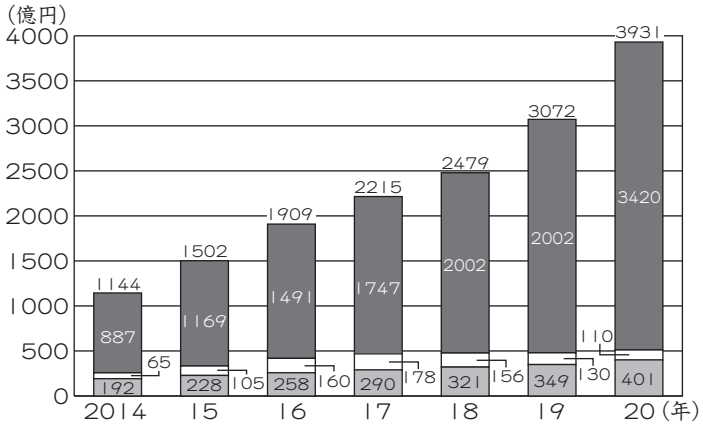
(1)　**資料1**は，2000年から2020年にかけての小学校の数の変化と児童の数の変化を示しています。**資料1**から読み取ることができる内容として正しいものを，次の**ア**～**エ**から1つ選び，記号を答えなさい。

ア　2000年と2020年を比べると，小学校の数は5000校以上減少している。
イ　2000年と2020年を比べると，児童の数は1000千人以上減少している。
ウ　2010年から2015年にかけて，児童の数が500千人以上減少した。
エ　2016年から2020年にかけて，小学校の数と児童の数ともに，前年に比べて増加した年がある。

(2)　次の文中の□にあてはまる内容を，**資料2**を参考にして書きなさい。

学校の存続を選んだ場合，たとえば，地域の住民が□ことが期待できます。

2　**資料**から読み取れることについて，次の会話文中の□にあてはまる内容を書きなさい。



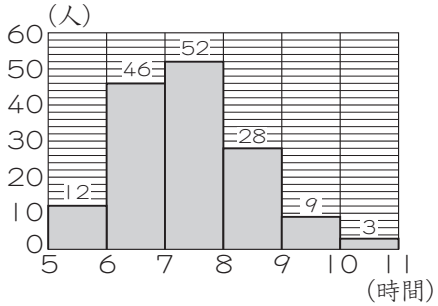
（全国出版協会資料より作成）

さとみ：資料をみると，電子出版の中でも，とくに電子コミックの占める割合が高く，その売上額が大きく増加していることがわかるね。
ひろと：そうだね。一方で，**資料**から，電子出版には，2018年から2020年にかけて□という課題があることもわかるよ。

練習問題

1 りんさんは，小学生の生活習慣について調べ，それに関する次の**資料１～３**を見つけました。あとの問いに答えなさい。

資料１　６年生のすいみん時間



資料２　「普段（ふだん）（月～金曜日），１日にどれくらいの時間，すいみんを取ることが最も多いですか」

すいみん時間		６時間未満	６～７時間	７～８時間	８～９時間	９～10時間	10時間以上
正答率	国語	54.4%	60.5%	63.8%	64.8%	62.7%	56.7%
	算数	67.4%	74.4%	78.0%	79.3%	77.4%	71.0%

資料３　「朝食を毎日食べていますか」

朝食		食べている	どちらかといえば食べている	あまり食べていない	全く食べていない
正答率	国語	64.1%	55.5%	50.3%	47.2%
	算数	78.4%	70.5%	65.1%	61.2%

（**資料２・３**は，「平成25年度　全国学力・学習状況調査」より作成）

(1) **資料１**から，７～８時間のすいみんを取る人たちの，６年生全体にしめる割合（わりあい）は何％ですか。小数第１位を四捨五入して，求めなさい。ただし，６年生全体の人数は150人です。

〔　　〕

(2) **資料２**から，すいみん時間と国語・算数の正答率の関係について読み取れることを書きなさい。

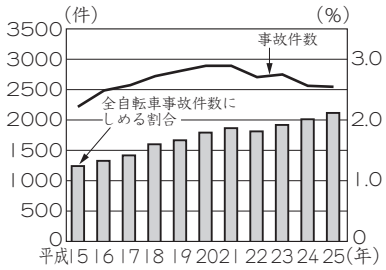
〔　　〕

(3) **資料３**から，朝食と国語・算数の正答率の関係について読み取れることを書きなさい。

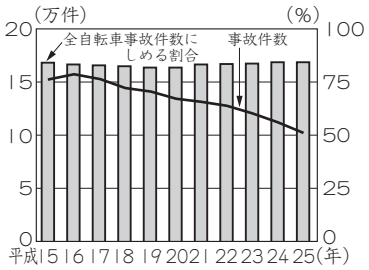
〔　　〕

2 かなさんは，自転車事故について調べ，次の**資料１・２**を見つけました。あとの問いに答えなさい。

資料１　自動車との事故



資料２　歩行者との事故



（**資料１・２**は，警察庁資料より作成）

(1) **資料１**から，2021年の自動車との事故についていえることを，事故件数と全自転車事故件数にしめる割合の２つについて，2005年と比較（ひかく）して書きなさい。

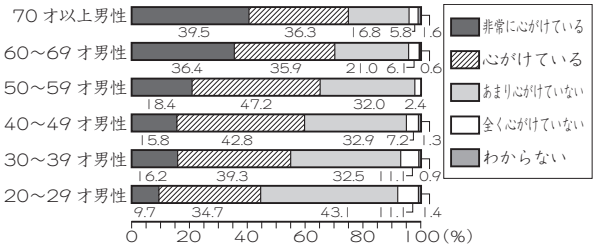
〔　　〕

(2) **資料２**から，2021年の歩行者との事故についていえることを，事故件数と全自転車事故件数にしめる割合の２つについて，2005年と比較して書きなさい。

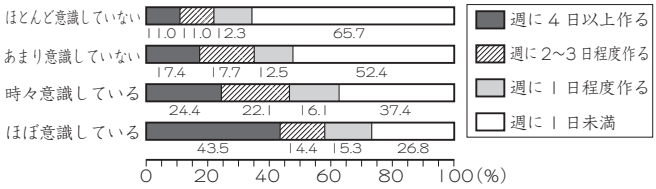
〔　　〕

3 てるさんは，一人暮(ぐ)らしをしている兄の食生活が気になり，次の**資料1・2**を見つけました。あとの問いに答えなさい。

資料1　男性の健全な食生活に対する意識



資料2　栄養バランスに対する意識と1週間に料理を作る日数



（内閣府資料より作成）

(1)　**資料1**から，20～29才の年代の男性と30才以上の全ての年代の男性を比べて，わかることを書きなさい。

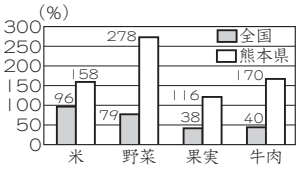
(2)　**資料2**から，栄養バランスを意識している人について，読み取れることを書きなさい。

4 熊本(くまもと)県に住んでいるわかなさんは，地元でとれた食材を地元で消費する『地産地消』に関心をもち，これに関係すると思われる**資料1～3**を見つけました。あとの問いに答えなさい。

資料1　給食における地元の都道府県でとれた食材の使用割合

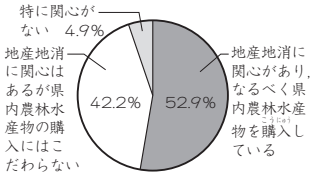
年度 県名	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24
熊本県	38.7%	43.4%	47.4%	46.1%	46.8%	50.0%
全国平均	23.3%	23.4%	26.1%	25.0%	25.7%	25.1%

資料2　全国・熊本県の品目別の自給率



（農林水産省「食料需給表」H23より作成）

資料3　熊本県でとれた食材の消費における県民の意識調査



（熊本県企画課「県民生活に関する意識調査」H25より作成）

(1)　**資料1**から，熊本県の，給食における県内でとれた食材の使用割合は，全国平均と比べてどうですか，また，その差が年々どのようになっていますか，書きなさい。

(2)　**資料2・3**から読み取れることを関連づけると，熊本県は，地産地消に関する取り組みがどのようであると考えられますか，書きなさい。

5 りみさんは，毎日食べている米について，次の**資料**を見つけました。あとの問いに答えなさい。

資料　１人１年当たりの米の消費量の変化（日本）

		1970年	1980年	1990年	2000年	2010年
米の消費量（kg）		95.1	78.9	70.0	64.6	59.5
内訳	家庭で調理した米の消費量（kg）	64.3	46.0	35.4	30.8	26.9
	家庭以外で調理した米の消費量（kg）	30.8	32.9	34.6	33.8	32.6

（「米ネット」（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）より作成）

(1)　**資料**から，1970年から2010年にかけての米の消費量の内訳について，読み取れることを書きなさい。

〔　　〕

(2)　(1)から，1970年から2010年にかけて米を消費する場がどのように変化したといえますか，書きなさい。

〔　　〕

6 かなめさんは，日本の選挙について調べたところ，次の**資料１～４**を見つけました。あとの問いに答えなさい。

資料１　日本の総人口の変化（単位：1000人）

年	総人口	男性人口	女性人口
1889	39473	19940	19533
1900	43847	22051	21796
1919	55033	27602	27431
1925	59737	30013	29724
1945	71998	33894	38104
2017	126706	61655	65051

資料２　日本の総人口に対する有権者の割合の変化

年	有権者の条件	有権者の割合
1889	納税額15円以上の満25才以上の男性	1.1%
1900	納税額10円以上の満25才以上の男性	1.2%
1919	納税額３円以上の満25才以上の男性	5.5%
1925	満25才以上の男性	20.0%
1945	満20才以上の男女	48.7%

(1)　**資料１・２**から，1945年の有権者のおよその数を求めなさい。

〔　　〕

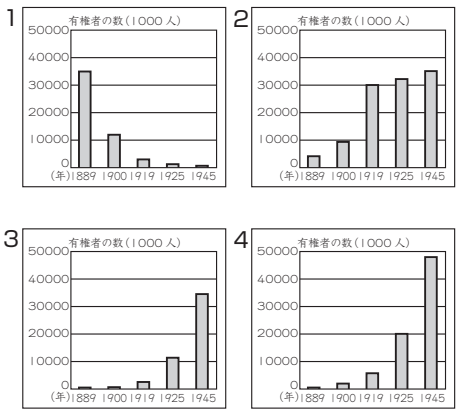
(2)　**資料１・２**から，1889年から1945年の有権者の数のグラフで適切なものを，**資料３**の**１～４**から選び，番号を答えなさい。

〔　　〕

(3)　**資料４**から見える日本人の投票行動における問題点について，読み取れることをもとにして書きなさい。

〔　　〕

資料３



資料４　日本の衆議院議員選挙の年齢層（ねんれいそう）別投票率（2017年）

年齢層（才）	18・19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	全体
投票率（%）	40.5	33.9	44.8	53.5	63.3	72.0	60.9	53.7

（**資料１～４**は，総務省資料より作成）

実戦問題

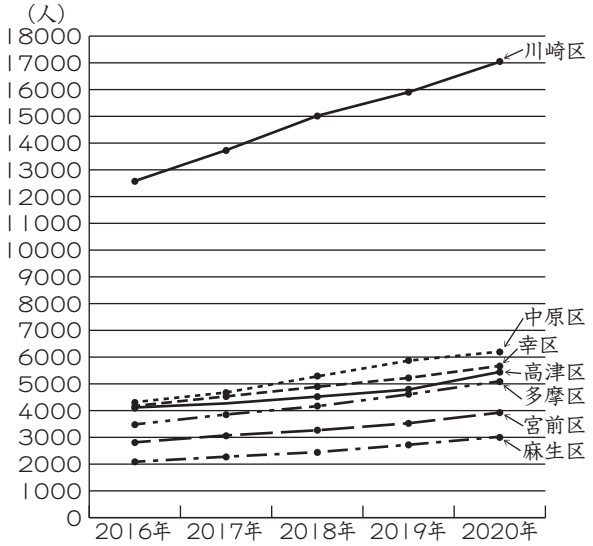
1 たろうさんとはなこさんが一緒(いっしょ)に調べ学習で図書館に来ています。次の会話文を読んで，あとの問いに答えなさい。 [川崎市立川崎]

たろうさん：最近，川崎市の街中を歩いていて，外国人が増えている気がしたから，川崎市の公式ウェブサイトで調べてみたら2020年の3月末には，46408人の外国人が川崎市に住んでいるそうだよ。次の**資料**を見てみると，住民として登録されている外国人の数がそれぞれの区で年々増加していることがわかるね。

はなこさん：同じ時期の川崎市の人口は，1535415人だから，外国人は川崎市全体の人口のうちの約［　　］%ということになりますね。

たろうさん：他にも**資料**からいろいろなことがわかるね。

資料　川崎市　区別外国人住民登録者数の移り変わり



（川崎市国際交流センターのデータより作成）

(1)　［　　］に入る数字として適切なものを，次の**ア**～**オ**から1つ選び，記号を答えなさい。

ア　1　　**イ**　3　　**ウ**　5　　**エ**　9　　**オ**　11　　［　　］

(2)　会話文中の下線部について，**資料**からよみとれることとして当てはまらないものを次の**ア**～**オ**から1つ選び，記号を答えなさい。

ア　2020年の外国人住民登録者数は，どの区も2000人を越(こ)えている

イ　2020年で外国人住民登録者数が6000人を超えているのは，川崎区と中原区である

ウ　2016年から2020年の川崎市の外国人住民登録者数は，川崎区が一番増加している

エ　2020年の川崎区の外国人住民登録者数は，川崎市の外国人住民登録者全体の3分の1以下である

オ　2020年の高津区・宮前区・多摩区の外国人住民登録者数の合計は，2016年の川崎区の外国人住民登録者数より多い　　［　　］

2 あなたは，龍太さんと玉美さんと一緒に社会科室でいろいろな資料を見ています。あとの問いに答えなさい。 [鹿児島市立鹿児島玉龍]

玉美：いい政策を考えるためにいろいろな国のことを知りたいな。

龍太：ここにこんな資料があったよ。

玉美：「おもな国に産業別人口の割合」が分かるね。どのようなグラフに表すとさらに分かりやすくなるのかな。

表　おもな国の産業別人口の割合（%）

国　名	第１次産業	第２次産業	第３次産業
中　国（2015年）	28	29	43
オーストラリア（2016年）	3	19	78
日　本（2016年）	4	25	71
日　本（1950年）	48	22	30

（国際労働機関（ILO）の資料より作成）

資料１　表の説明

第１次産業とは農業・林業・水産業など，第２次産業とは鉱業・製造業・建設業など，第３次産業とはこれら以外の産業を表している。

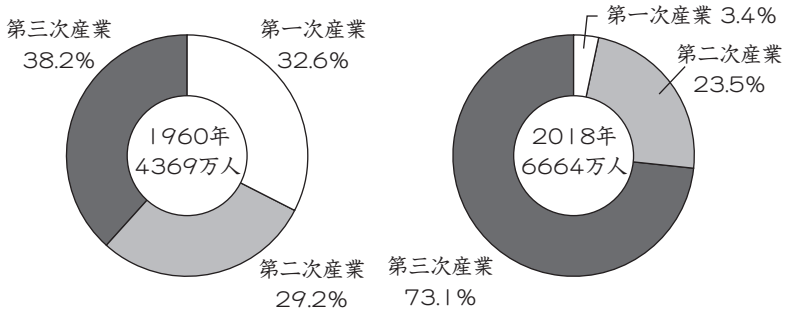
(1) **表**は帯グラフに表すとより分かりやすい資料になるが，その理由を**表**をもとにして，次の□に合うように35字以内で書きなさい。

ただし，句読点や記号も字数に数えなさい。

帯グラフは□

龍太：２つの円グラフが書かれている資料もあるよ。比べてみると分かってくることがありそうだな。

資料２　日本の産業別人口割合の変化



（注）円グラフの中央の人数は，その年の第１次産業，第２次産業，第３次産業の合計人数を表している。
（国際労働機関（ILO）の資料より作成）

(2) 次の文章は，2018年の第２次産業の人口は1960年と比べて増えていることを説明したものである。**資料２**をみて，次の文章の□に入る数を書きなさい。

ただし，四捨五入して，上から３けたのがい数にしなさい。

第２次産業の人口を調べると，1960年は約1280万人なのに対して，2018年は約□万人だから増えている。